

2018年度就職先へのインタビュー調査結果

本学卒業生の主要な就職先である10法人（企業分野6法人、医療・福祉分野4法人）に対して、「学修到達レポート」（学生ごとの学修成果と到達度を提示する書類）のサンプルを示し、以下の4点についてインタビューしました。

- ①採用側として、新卒学生一般に対して一番求める資質
- ②勤務に際して、本学出身学生に何か特段の傾向があるか。（積極的評価、否定的評価）
- ③就職活動で学生が「学修到達レポート」を提出した場合、採用活動時に参考にするか。
- ④この学修到達レポートに盛り込んだほうがよい項目、内容があるか。

以下にその結果について報告します。

No.	インタビュー先	採用側として、新卒学生一般に対して一番求める資質	勤務に際して、本学出身学生に何か特段の傾向があるか。（積極的評価、否定的評価）	就職活動で学生が「学修到達レポート」を提出した場合、採用活動時に参考にするか。	この学修到達レポートに盛り込んだほうがよい項目、内容があるか。
1	医療法人	やる気、意欲（患者を良くしたい、という気持ち）を重視したい。 最近では、勤務条件・待遇面を優先する傾向を感じるが、まずは「患者のために」という気持ちを持ってほしい。	基本的には優秀だと感じている。 もう少しガツガツした欲があると良い。卒なく無駄なく最短ルートでこなそうとする傾向がある。 試行錯誤しながら経験を積んでほしい。	あれば活用したい。担当教員のコメントは特に参考にしたい。	アルバイト経験の有無を重要視しているため、その項目があるとよい。（学生の普段の生活が垣間見え、本質が分かりやすいため）
2		基礎学力および専門性、責任感。医療ソーシャルワーカーとしてまず必要と思われる資質は基礎学力。ベースとなる基礎学力があって、はじめて業務を遂行するための専門性・責任感が培われるため。	「福祉」に対する意識、人のために役立ちたいという意識が高いところ。	GPAなど学力・成績状況が確認できる項目に関しては参考にしたい。また、卒業論文のテーマ・内容等に関する詳しい情報があれば参考にしたい。	卒業論文テーマ・内容等に関し確認できる項目があるとよい。
3	医療機関	看護師、ケースワーカーなど、職種により求められる資質も多少異なる。 看護師は、まずは基礎学力が必要。臨床現場での経験・知識も必須。こうした部分は在学中の臨床実習、入職後の現場経験で培うこととなる。 ケースワーカーは、まずは患者の立場に立ち寄り添う感覚が必要。	目立つような否定的評価はない。全体的に非常に真面目で患者に寄り添うやさしい気持ちを持った卒業生が多い。	採用活動に際してこうした資料があれば何らかの参考にはなる。ただし、その必要度等は職種により異なる。	職種により状況が異なるため、今回のインタビューで回答することは困難。
4	社会福祉法人	自ら考えて動く力、幅広い年齢層・タイプの方に柔軟に対応できるコミュニケーション力、自分の気持ちをコントロールする力、忍耐強さ。	積極的評価：優しい、人が良い 否定的評価：受身な姿勢	あれば参考にはしたい。	社会福祉士資格の取得見込みについての項目があるとよい。例えば、これまでの模試の結果など。
5	民間企業	チームとしての仕事が多く、コミュニケーション能力は特に必要。 上下関係を踏まえたコミュニケーションが違和感なくとれる学生は頼もしく感じる。 サークル活動・アルバイト経験を通して、こうした能力・センスを身につけていると、仕事がスムーズに進むケースが多い。	積極的評価：素直、やさしい、人柄の良さ 否定的評価：ややおとなしすぎる卒業生が多い	特に履歴書で確認できない情報（ジェネリックスキルなど）は参考になる。 また、企業側だけでなく、学生本人にとっても自分自身の課題が見えてくるなど参考となるのではないかと。	GPAに関する説明が抽象的で分かりにくい印象を受ける。 評価方法、数値ごとのレベル（この数値だと全体でどのレベルなのか）などに関する記載があると、さらにイメージしやすい。

No.	インタビュー先	採用側として、新卒学生一般に対して一番求める資質	勤務に際して、本学出身学生に何か特段の傾向があるか。(積極的評価、否定的評価)	就職活動で学生が「学修到達レポート」を提出した場合、採用活動時に参考にするか。	この学修到達レポートに盛り込んだほうがよい項目、内容があるか。
6	民間企業	現場の作業はほぼ海外に移行し、オフィス内の仕事が増える傾向にある。また、AIにより単純作業は減少し、「人」しかできない業務が中心となる。そうした傾向から主体性、調整能力といった資質が必要。また、どの部門に配属されるにしても一定水準の基礎学力は必要である。	企業として本学卒業生に接する機会が十分ではない状況であるため、傾向に関しては判断できない。	同一学部、同一大学学生の採用に関し、このような資料があると参考になる。	専門的な資格に関しては、取得資格名のみ記載では詳細が分からないため、資格内容等に関する簡単な説明・コメントがあるとよい。卒業論文に関しても同様に、テーマだけでなく内容面に関する説明・コメントがあると参考になる。
7		素直さ。福祉事業においては、営業マンのような積極性は特段重要ではない。当然、コミュニケーション力も必要であるが、聞く力・理解する力があれば、働く上で特段困ることはない。一方で、素直さがないと、組織の中で仕事を行う上で支障が出たり、将来的に成長していくことが難しいのではないかと感じる。	素直で真面目。他大学に比べ、離職率も低い。将来的に幹部となる人材を育成したいこともあり、もう少し貪欲さや挑戦心(チャレンジ精神)があると良いと感じる。	あれば参考にすが、あくまで参考程度であり、決定材料にはならないだろう。基本は、面接を通じてその人となりを見ていくことで判断する。GPA等は基準が分からず、良いのかどうかの判断が難しい。	レポートに基準や見方が記載されているとよい。
8		(放課後デイサービス等の事業分野から)子どもが好きかどうか、また、協調性のある学生が望ましい。組織の中で仕事を行う上で、自分の意志を曲げられない人は周りに迷惑をかけることがある。	大学で学んだ机上論で考えることが多く、現場に即した対応や柔軟性ができないことが多い(経験を積まないと難しい部分もある)。まじめな学生が多い。柔らかさを持てると良い。	参考にしたい。興味はある。職務経歴書の位置付けのものになるとよい。学生も話したいことを言えずに終わることも多いと思うので、このような補助資料があれば、別の角度で学生を見ていくことができる。	学業以外のこと(活動内容、部活等)。強みのプレゼンとなるよう本レポートを活用してほしい。自分らしさが見える内容だと採用側は参考になる。
9		コミュニケーション力や学力も当然大事な資質だと思うが、何より仕事に対する「やる気」がないと入社後に伸びない。その点で、就労意識が求められる。		参考にしたい。内容としてもぜひ知りたいものである。一方、外部業者のジェネリックスキル測定結果についての社会的認知度や、他大学でどれほど使われているのか、また、他企業が参考にしているのかが気になる。	特になし(現状のレポートの内容で参考になる)
10		(主に障がい者雇用を想定した回答) コミュニケーション力、主体性、就労意識が求められる。受け身ではなく、能動的に仕事ができること。与えられて動くが、自ら考えて動かない学生が多い。	まじめですれていない。	WEBでのエントリーシート・適性検査→面接の流れで選考を行っているため(履歴書は内定後に提出させる)、どのタイミングでこのレポートを受け取るのか、提出のタイミングが不明。面接の際、質問内容を補強するツールとしてあれば便利。	特に項目の追加等についてはない。意見として3点。 ①企業よりも学生自身が自分の「弱み」を明確にするツールとして活用できそう。 ②スコアが低い場合、または、年々スコアが下がっている場合、学生はこのレポートを提出するのか。 ③担当教員のコメントは学生の客観的評価として参考になる。

3. 正課外活動の成果

所属サークル	
ボランティア	
特記事項	

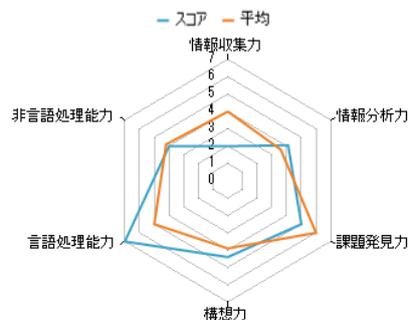
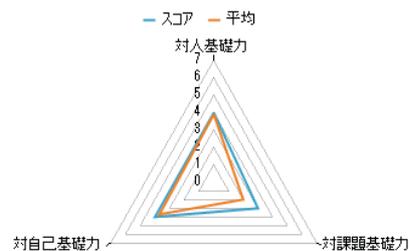
4. ジェネリックスキル・語学力等

コンピテンシー

分類名	スコア	平均

リテラシー

分類名	スコア	平均



語学力 英語能力

その他

5. 総評

ゼミ科目担当教員

教員 太郎

発行日 2018年4月18日

学長 児玉 善郎

